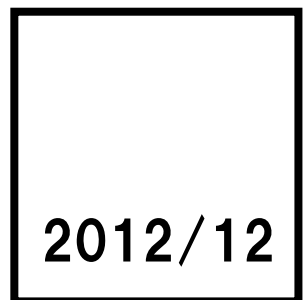




神奈川県立川崎図書館 が所蔵する  
全国有数の〈社史コレクション〉を  
さらに活用していただくため、  
社史の使い方や、社史の楽しさ、  
社史情報などをお届けしていきます。



今年の最後は、皆様が気になる「どうやって社史を集めているの？」というご質問に答えさせていただきます。

まず大前提として、社史は流通ルートに乗らないので、通常の本とは違い新刊情報では刊行がわかりません。当館では国立国会図書館が受け入れた本のデータ（日本全国書誌）をチェックして、未所蔵の本は寄贈依頼しています。

国立国会図書館への納本は義務なのですが、もしその義務を怠っていると、この方法では社史の刊行情報がつかめません。そこでどうするか…。

## 当館の秘伝を特別公開します。

例えば、古書店の社史特集などの目録を見て蔵書の有無を調べています。他の図書館（とくに、社史をコレクションしている図書館・資料室、地域の図書館の郷土資料）のデータを確認したり、記念事業を行っている企業や、社史の編纂協力企業のホームページを見て、社史の刊行がないかチェックすることもあります。こうして、とにかく刊行の情報がわかったら、即座に電話や手紙で寄贈をお願いしています。

エピソードをいくつか。

- ①利用者の方から「この会社が三十年史を出しているけど、寄贈してもらったら」と情報をいただくことがあります。
- ②創業五十周年、百周年などを迎える会社があるのを知ると「記念事業で社史を刊行していませんか？」と電話をしている同僚をよく見かけます。
- ③同僚が旅のお土産に有名な銘菓を買って来ました。その箱に「〇〇堂は創業百周年」と書いてあったので、物は試しに電話をして「社史はありませんか？」と問合わせてみました。

## 社史をどのように集めているのか？

（裏面に続く）

(表面から続く)

④商品関係の調査をしていて「ある会社の社史があつたら便利だな」と思つて、何の情報もないまま「社史を刊行していませんか」と電話しました。

⑤『百年史』をご寄贈いただいた際、「それ以外に『八十年史』とか『五十年史』はありませんか」と尋ねてみることもありま

す。  
結論。「社史は多少ずうずうしくないと集まらない」です。

寄贈依頼をしても「在庫がもうないのです：」「関係者のみの配布なので：」などの理由でお断りされてしまうケースもあります。多くの場合、寄贈していただいています。「依頼をいただいて嬉しいですよ」と送ってくださったり、「社史を編纂する際に社史室をよく利用していたから」と、わざわざ届けてくださったりもします。

# 社史の寄贈、ぜひお願いいたします。

「社史といえは神奈川県立川崎図書館なので」と、自主的に寄贈して下さることもあります。社史を作成した会社に「神奈川県立川崎図書館には寄贈しておくといよ」とアドバイスをして下さる方がいるという話も何度か耳にしています。

ほかにもいろいろななかたちで、会社や団体・個人の方から社史の寄贈をいただいています。感謝の気持ちでいっぱいです。

こうして開館以来、五十四年間で一万六千冊以上の社史を集めることができました。皆様のいろいろな思いが詰まった社史を、大切に、より多くの方の役に立つように、努力していきます。

●  
最後に今号の本題です。社史作成の際は、ぜひ当館にご寄贈をよろしくお願いいたします。

(科学情報課・高田)

今年の1月から刊行をはじめた「社楽」ですが、年間に11号と、ほぼ月刊のペースで刊行を続け、いろいろな切り口で社史を紹介してきました。ご愛読、ありがとうございました。

さて、これまで当館では社史を「約1万6千冊の日本屈指のコレクション」と紹介してきました。しかし、これだけ社史を刊行している国が他に無いことを踏まえると、「世界屈指のコレクション」なのかもしれません。そこで大きく「世界に誇る社史コレクション、そして、社史室をこれからもどうぞよろしく願ひいたします。」と結びさせていただきます。来年もお楽しみに。

どうぞ、よいお年をお迎えください。

●お問い合わせ先 神奈川県立川崎図書館 科学情報課

210-0011 川崎市川崎区富士見2-1-4

電話：044-233-4537 FAX：044-210-1146

<https://www.klnet.pref.kanagawa.jp/kawasaki/index.html>